

(体育)

運動に楽しさや喜びを見つけ、自ら運動に取り組む子どもを育てる

大阪市立みどり小学校 研究部

1. 主題設定の理由

(1) これまでの研究と児童の実態

本校では、平成25・26年度、「健康力を高め、たくましく生きる子どもを育てる」というテーマで研究に取り組んできた。これにより、子どもが健康の大切さを理解し、自らの健康について関心をもつようになったり、教職員が保健教育（保健指導・保健学習）について積極的に実践することにより指導力が向上したりするなど、大きな成果を上げることができた。しかし、その一方で、「子どもたちの体力向上」には多くの課題を残している。

本校の子どもは、素直で明るく、何事にも前向きに取り組むが、運動に関しては、積極的に取り組む子どもとそうでない子どもの二極化が見られる。「全国体力・運動能力、運動週間等調査」の結果は、ほとんどの種目で全国平均を下回る状況が続いている。さらに、「児童の運動に関する実態、習慣」に関する質問紙による調査の結果では、授業以外の時間に運動やスポーツなどに行っていない子どもが25%を超えていたり、体育の授業が楽しいと感じている子どもの割合が、男女ともに全国や大阪市の平均を下回っていることがわかった。

(2) 研究主題について

子どもが意欲的に運動に親しむ素地を育む上で、体育の授業が果たす役割は大きい。運動に積極的に取り組む子とそうでない子の二極化や体力水準の低下を克服するために、まず、運動に対する苦手意識を取り除き、運動の楽しさや喜びを体感させることによって、自ら運動に取り組もうとする子どもを育む研究を進めることが必要であると考えた。

そこで、平成27年・28年度の研究主題を「運動に楽しさや喜びを見つけ、自ら運動に取り組む子どもを育てる」とし、主として体育授業の質を高めること、体育的活動の充実を図ることにより、子どもたちの体力向上に迫った。

2. 研究の視点

体育科の目標である「運動に親しむ資質や能力の基礎を高める」ためには、子どもの能力・適性、興味・関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決する学習が重要になる。そのための授業として「課題解決型の学習」が有効である。「課題解決型の学習」とは、まず「今もっている力」から出発し、自分の能力・適性、興味・関心等に応じて適切な課題を設定し、仲間と協力し合いながら自ら工夫・努力して、主体的に課題を解決していく学習であると考えた。

本研究で目指す課題解決型の授業とは、子どもの探究心が起点となる授業形態である。まず、各単元における「子どもたちの目標」をもたせる。授業は、その目標を達成したいと思う子どもたちの願いからスタートし、目標達成までにできるいくつかの課題を仲間と協力し合いながら解決していく活動がメインになる。指導者は、その課題解決の活動を指導・支援していく。課題の解決に向かう話合い活動や見合い教え合いを大切にして授業を進める中で、体育の学力である「技能（運動）」「態度」「思考・判断」の育成をねらう。

そのように、子どもが課題を探究し、解決していく上で大切にしたいのが、体を動かすことの楽しさである。運動が得意な子もそうでない子も、みんなが力いっぱい運動でき、

「その運動が好きになる」「やってみたいと感じる」教材や場は、運動に対する意欲につながっていく。子どもたちが、運動の仕方やゲームの仕方を工夫するとともに、一人一人の力に応じて楽しめる場をつくることは重要な要素であると考える。

また、「運動して楽しかった」と子どもたちが感じるときの要素の一つに「仲間との豊かなかかわり合い」がある。仲間とかかわり合う中でこそ、できなかったことができるようになったり、一人では味わうことのできない喜びや楽しさを味わうことができるようになったりする。仲間と見合い、教え合い、励まし合い、高め合う学習が展開されることによって、子どもたちの課題を探究する力や、運動への意欲、そして運動技能や体力が向上していくものと考える。

以上のことを踏まえ、研究の視点を以下のように設定した。

- ① 子どもが的確な課題をもって、主体的に課題解決に取り組むことができる指導法の工夫
- ② どの子どもも力いっぱい楽しく運動ができる場の工夫
- ③ 学習（運動）を支える仲間との豊かなかかわり合いが生まれる場の工夫

これを踏まえ、平成 27 年度は、体育科の「器械運動」領域と「ゲーム／ボール運動」領域を対象に授業研究を進めた。

3. 研究の成果と課題

（1）成果

- ① 仲間との見合いや教え合いが生まれる場面を設定することによって、課題を持つことやその課題を解決することができた。
- ② スモール・ステップで取り組むことができる場や練習方法を設定したりすることで、運動の意欲を高く保ったまま、主体的に取り組むことができた。
- ③ グループにおける個々の受容感を高めることによって、グループで学び合う「必要性」をもたせることができた。

（2）課題

- ① 安全性や課題解決に向けた学び合い活動とバランスを取りながら、運動量を確保した授業展開を考えていく。
- ② 子どもの「わかる」につながる効果的な I C T の活用方法を探っていく。
- ③ 各学年で習得すべき運動技能を確実に身につけられるよう、学校全体として児童の「できる」を積み上げていく体育科学習を進めていく。

4. 体育的活動の充実

本校では、体育授業の質の向上と併せて、子どもたちの体力向上や自ら運動に取り組もうとする意識の高まりを目指し、年間を通した体育的活動の充実を図っている。学期に一つずつ、3つの「チャレンジタイム」を設定し、子どもたちが自分の力に合わせて適切な目標を持ち、意欲的に運動に取り組むことができるようにしている。

5月：鉄棒チャレンジ、11月：なわとびチャレンジ、1月：かけ足チャレンジ

3つの「チャレンジタイム」によって、子どもたちが休み時間に運動場に出て体を動かす時間は、確実に増えている。また、すべての活動で「チャレンジカード」を活用することにより、子どもたちの運動に対する意欲は高まった。